

## H26年度 第1回嶺北地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時：9月5日（金）9:30～12:00

場所：土佐町保健福祉センターあじさいホール

### 1 議事等

- (1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて
  - ・平成26年度のスケジュールを説明
  
- (2) 地域アクションプランについて
  - 1) 第2期嶺北地域アクションプランの進捗状況等について
    - ・重点的な取り組みを中心に上半期の進捗状況等を説明
  
- (3) 産業成長戦略について
  - 1) 地域観光について説明
  - 2) 移住促進の取り組みについて説明

### 2 意見交換

<産業振興計画関連 年間スケジュールについて>

- ・特になし

<地域アクションプランについて>

- ・あかうしの取組について、畜舎や管理棟が完成しているようだが、計画したときから導入費用やエサ代が相当上がって経営が心配されるところである。飼育技術等の支援は出ているが、経営全般についての指標などは考えているか。  
→牛は3年で出荷となるが、単に育てて出すだけでなく加工とか付加価値を付ける事業展開を考えられているので、採算が合うのかどうかシミュレーションしていかなければならないと思っている。

<産業成長戦略について>

【移住促進の取り組み】

- ・移住者の年齢層が分かれば聞きたい。  
→去年度の移住者の270組のうち、移住コンシェルジュの相談を通じた91組に対してアンケートをしており、回答のあった中では30代、40代、20代の順となっている。
  
- ・移住者が何の仕事に就いているか、3月と4月が多いのは転勤も入っているか。  
→いわゆる転勤族は含めないということを基本ルールに置いており、高知に住み続ける意思を持って住民票を移した方を移住者と便宜上呼ぶという基本ルールにしている。移住者がどういった仕事に就いているかについては、個人情報との関係がありかっちり把握できていない。
  
- ・25年度実績として468名の移住者とあるけれども定住まで行かれた方の数字が出てこない。移住と定住の境に何か条件があるか。  
→何年経ったら定住という整理までできていない。移住後、思うようにいかずに高

知を離れる方もおいでると聞いているが、宣言して出る訳でもないために具体的な事例、何故かが分析し切れていない。分かっている中では、違う仕事にチャレンジしたいという思いで外に出たという例があるように聞いている。

- ・ 定住ができなかった理由、その部分が今後、移住促進、定住へ向けての一番大事な課題だと思う。全く知らないところ、全く知らない人たちの中で生活するということを紹介する、その次のステップが受け入れ側としたら一番大切。定住せずに帰っていったというのは、そこまでの接点がなかったということ、一番大事なところが抜かっていたんじゃないかと思う。地域ボランティアの方もいらっしゃるようなので、重点的にその部分をやっていただければと思う。  
→ご意見のとおりである。今、34人いるサポーターを何とか増やし、いざという時に頼れる方が身近にいる状態を作り上げることが重要と考えている。田舎ゆえの素晴らしさとしんどさをきっちりと伝えることがミスマッチを防ぐ大事なポイントと思っている。
- ・ 嶺北でも若い夫婦や子どもが移住してくれることで、新しい考え方が入って来てすごく刺激になっているし、地域の祭りなど凄い支えになってくれているので、もっと入って来てもらいやすい環境にして、県と市町村と密接に繋がって行けばすごい力になると思うので、長く続けていただきたい。
- ・ 移住された方への支援、最大のメリットは何か。  
→財政的な部分では、家屋の改修がある。例えば空き家を借りた場合、しばらく住んでなかったためにあちこち直さないといけないケースに移住者の方が持ち主の同意を得て家を直す際の補助を用意している。あるいは、2つの事業者に協力をいただき、移住の際に「高知家で暮らし隊」に登録していると、引越するに当たって割引などの特典を付けていただいている。
- ・ 税金面で、2年とか3年間は移住する約束のうえで幾らか免除できるとか、そういうことは何も考えていないか。  
→先に住んでいる県民とのバランスというものが出てくると思う。そういう意味でご意見までの踏み込みは市町村も含めてどうかという気がする。今のところ県内では税の減免という話はないと思う。
- ・ 先ほどの税金の話が出たが、逆の方で、固定資産税が家主には掛る訳だが、固定資産税の一部免除・全学免除とか処分代行とかの手立てをすることで、空き家が活用できるのではないかと思うがどうか。  
→荷物を置いているから貸せないという話があり、今年度荷物を市町村等が処分をする際の補助制度を立ち上げた。既に申請も上がってきているので、今後もっとPRして普及していきたい。
- ・ 家主さんが提供することで固定資産税も免除しますよみたいな話し合いが今後あればいいと思う。  
→担当部局にご意見として伝える。

## 【地域観光】

- ・嶺北地域には、本山町のぼうむの焼酎、大豊町のどぶろく、土佐町の日本酒があるわけだが、仕入先を知っている人はごく一部となっている。嶺北で限定した酒祭りみたいな形でやっていけば、濁酒や焼酎がPR出来るのではないかと思う。飲酒運転をしないようドライバーにはセーフティマークみたいなものを貼る等、周りにも分かるシステムも作って実施することができないかと思うがどうか。
  - そのような取組が地域を跨いだ取組になると思うが、広域観光組織の支援をしていくに当たって、取組を一定整理して頂いたうえで、必要な事業費や人役を町村と連携して支援していくことになる。交流人口拡大のために世論調査と連携した新たなイベントを興すことができれば、検討中の新しい広域観光の仕組みの中で一定支援ができると考えている。
  - 補足で、数年前に濁酒ができた時に考えたことがあったが、お酒を提供する際の提供者の責任について、相当議論をしたが厳しいということで止めた経緯がある。しかし、ご意見のようにどぶろく、焼酎、日本酒と出ているので一つ再検討をする価値があると思う。少し、時間をいただき検討させてもらう。
  - 続けて補足すると、体験型に来て頂けるお客様にこういう食品を食べていただく、お昼にはこういうものを食べていただくというように、地域の方々のご協力を賜りながら、観光、体験と組み合わせた旅行商品とか体験商品としてターゲットを絞った形で少し整理をしていきたいと考えている。

## ■お問い合わせ先

高知県産業振興推進部計画推進課（地域産業担当）

電話 088-823-9334

FAX 088-823-9255

メール 120801@ken.pref.kochi.lg.jp